

龍ヶ崎市公共施設再編成の行動計画策定に係る有識者会議（第1回）議事要旨

- 1 日時：平成25年6月28日（金） 14時～16時10分
- 2 場所：龍ヶ崎市役所5階 全員協議会室
- 3 議題：（1）委員長・副委員長の選出について
（2）龍ヶ崎市公共施設再編成の行動計画策定に係る有識者会議の目的について
（3）龍ヶ崎市の基本的な考え方について
- 4 出席者：
委員：藏田委員長、倉斗副委員長、西尾委員、岡田委員、志村委員、松尾委員、龍崎委員、
岡田財政課長補佐（飯田委員代理）
事務局：【企画課】島田課長補佐（行政改革推進グループリーダー）、小林主幹、関口主幹
【財政課】生井係長
【アドバイザー】PHP総研 佐々木氏

5 議事要旨

「（1）委員長・副委員長の選出について」、委員長が藏田氏、副委員長が倉斗氏に決定した。
「（2）龍ヶ崎市公共施設再編成の行動計画策定に係る有識者会議の設置目的について」、「（3）龍ヶ崎市の基本的な考え方について」、事務局から資料の説明があった後、議論が行われた。委員の発言の要旨については以下のとおり（議事録については別途公開する）。

▼何のために公共施設再編成を行うのかが重要である。

▼政策的判断については、補助金の縛りがあるから統廃合できないという考えはやめるべき。返すものは返すという考えが必要である。

▼「行動計画」というものがイメージしにくい。秦野市で言うようなシンボル事業のようなものなのか。

▼全市的な削減目標がある中で、個別施設の積み上げで全体目標を達成できるのかが疑問である。

▼市民のワークショップを開催する場合に、市からの提案以上の案が市民の意見として出てくるのか疑問である。

▼ある程度の案が固まった段階での市民への意見聴取では単なるガス抜きになってしまう懸念があるので、全体像を掴む段階での意見聴取が必要と考える。

▼時期をみて、ワークショップを開催することに否定はしないが、それが多くの市民の代弁なのかという懸念がある。

▼大切なことは総論をしっかりと固めることである。

▼市民にとって公共施設再編成の対象は全施設である。

▼議論をする際に、「機能」と「ハコ」を分離して考えることに職員も慣れていない。「この機能が
必要だから、“この施設”が必要なのだ」という議論にならないように注意して議論を進めていくべきである。

▼さいたま市も龍ケ崎市と同様に学校施設が市全体の延床面積の5割以上を占めているため、学校の建替え時期にどのように建替えるかが課題になってくる。

▼習志野市での経験として市民から言われたことのなかで「市民は自分の知っている施設しかイメージできない」という言葉がある。直近で対象となる公共施設に対しては、きちんと計画を策定していく必要がある。あわせて、10年先やさらに先については、議論の方向性は示して変動などが生じたときには柔軟な見直しを図れる状態にしておけばよい。

▼可能であれば、地域の特性（小学校区など）の情報を事務局から本会議に提示していただけないか。

▼地域の特性を考慮することが必要である。一般に公共施設再編成は行財政改革の視点で語られてきているが、各論に入っていくとまちづくりの視点から公共施設再編成を考えていく必要がある。

▼市として定住人口は減らしたくないので、公共施設再編成をまちづくりの視点からできないかということも議論してきたが結論がでていない。

▼さいたま市のように分野別（用途別）の方針を決めておき、それを基に地区へ落とししていく考えや方法もある。

▼公共施設再編成の方法として、物理的な条件を定め優先順位を決めて対象施設を絞っていく方法と市としてターゲットを絞ってシンボル事業を設定していくという考え方がある。

▼できあがるものはシンプルなものが多い。計画は色々と書きがちになってしまうがこれまでの経験からシンプルが良いというのが率直な感想である。